

3-⑭ 指導方法・評価等の工夫・改善（授業づくり）

「外国語活動・（外国語科）の充実に向けて」～職員研修の充実と環境づくり～

聖籠町立亀代小学校 近藤 幸栄

1 研究の視点に関する実態

平成 32 年度から全面実施される新学習指導要領の移行期間である今年度は、本校では外国語活動を、3・4年生で 15 時間、5・6年生では 50 時間とし、教育課程に位置付けている。必要な時数は、月曜日 6 校時を「ぐんぐん外国語」として増設し、時数を確保している。

今年度から、外国語活動を、担任が主となり自信をもって指導できるようにするために「職員研修」と「場：環境整備」に重点を置き、学校体制で外国語活動の授業が進められるようにする。

2 改善のための具体的な方策と取組内容

(1) 外国語活動にかかわる「研修」の実施 <夏季休業中>

○今回の研修のポイント ①絵本を使った読み聞かせ ②チャンツ ③Small Talk

子どもたちが外国語活動・外国語科を楽しみながら活動、学習を進められるよう、また、担任が自信をもって主となり指導できるようにしなければならない。そのために、今回は、特に中学年での「チャンツ」、「絵本の活用」、高学年での「Small Talk」（スモール・トーク）を取り入れた研修を行う。

① 絵本を使った読み聞かせ ② チャンツ

英語（文字）が読めない児童にとっては、視覚情報の多い英語絵本は、英語の学びに有効。チャンツもリズムに乗せた英文で記憶に残りやすく、自然と暗唱できる。
*朝の会などで、担任がチャンツで日常的に英語にふれさせることも可能。

体育のウォーミングアップや音楽の発声練習のように、技能教科では頭も心もその教科に没頭できるような導入を行うことが多い。外国語活動のウォーミングアップには、「絵本」や「チャンツ」が大変有効。

絵本を選ぶ時には、本文に繰り返し表現が多く出てくるものがよい。

(2) 外国語活動にかかわる「場：環境整備」

楽しく外国語活動を進めるには、ピクチャーカードや英語の音源などの準備を短時間で行うことが効率的である。

中学年：Let , s Try! 1・2 高学年：We Can! 1・2 もパソコンにデジタル版・補助教材をインストールして、いつでもすぐに使えるように環境の整備をしておく。

今年度から徐々に外国語活動や外国語科の時数が増え、担任がより主体的に進めていかなければならない時間がどんどん増加。

そのためには、プロジェクターがすぐに起動する環境や、音源となる音声教材がすぐに再生できる環境や、必要な絵本やピクチャーカードが取り出しやすいように揃っている環境が重要。

併せて、掲示物等による環境づくりによって雰囲気が高めることも重要。（理科室、音楽室等がそうであるように、英語が話したくなる、英語を学びたくなる雰囲気づくり）

3 取組の成果と残された課題

研修を実施することで、教員の外国語活動に対する抵抗感を少なくしたり、Let , s Try!や We Can!のデジタル版など教材に対する理解も深まったりした。研修の時間が限られている中で、教員一人一人の外国語活動・外国語科に対する力量（意欲面も含めて）をいかに高めていくかが課題である。

また、環境整備として、ピクチャーカードなどは購入を進めているが、大型プロジェクターがまだルームに常設されていない。校長会としても、教育委員会に今年度も備品の配当を要望していく。